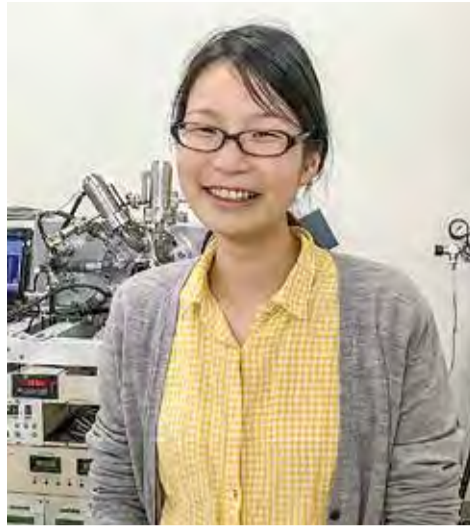


坂野さん優秀講演賞

ハイブリッドロケット燃料の燃焼を研究

火薬学会の2018年度春季研究発表会（5月22、23日、東京都港区の機械振興会館で開催）で、坂野文彦さん（工学専攻博士1年、和田豊研究室II写真）が「低融点熱可塑性樹脂を用いたハイブリッドロケット燃料の燃焼の設計、推進系の実証実験などに関する研究」を口頭発表し、優秀講演賞を受賞した。



観測ロケットの設計、推進系の実証実験などを進めている。航空宇宙分野は「総合工学」といわれ、坂野さんは宇宙輸送技術をキーワードに、次世代型ロケットの推進系の提案や小型

現象を考察する点が面白いという。坂野さんは「和田准教授や研究室仲間の多くの助言で発表を成し遂げることができ、感謝しています。博士課程1年目での受賞をうれしく感じています。次の学会ではより深みのある研究報告ができるよう精進します」と語った。

が困難だった。また、表面張力は雰囲気中の酸素に影響されるが、それを考慮した測定もなかった。吉崎さんは、材料を空中に浮遊させる電磁浮遊炉を使うことで、高温測定を実現。雰囲気の影響も考慮し、Fe-Si合金の正確な表面張力データを導くことができた。

ポスター発表では、理解されやすいよう図やフォントの大きさ、色合いなどを工夫。全体の構成が大変だったという。吉崎さんは受賞に「とてもうれしく思います。学会へ行くことを応援してくれた家族と、小澤先生に心から感謝します」と感想を語った。

吉崎さん優秀賞

Fe-Si合金の正確な表面張力を測定

日本鉄鋼協会の第176回秋季講演大会（9月19、21日、仙台市の東北大・川内キャンパスで開催）学生ポスターセッションで、吉崎隼人さん（機械サイエンス専攻修士1年、小澤俊平研究室）の「Fe-Si合金融体の表面張力に対する組成依存性」が優秀賞に選ばれた。

構造材や磁性材料となるFe-Si合金は、融点が絶対温度1400度以上と非常に高温で、従来の方法では表面張力の測定が困難だった。また、表面張力は雰囲気中の酸素に影響されるが、それを考慮した測定もなかった。吉崎さんは、材料を空中に浮遊させる電磁浮遊炉を使うことで、高温測定を実現。雰囲気の影響も考慮し、Fe-Si合金の正確な表面張力データを導くことができた。

電気学会の基礎・材料共通部門II A部門IIで、電気電子情報工学専攻の辻田篤志さん（修士2年、相知政司研究室II写真）が昨年発表した論文「平行平板電極中の空間電位推定に関する検討」が、同部門の2017年優秀論文発表賞に決まった。9月5日、兵庫県姫路市のイグレひめじで開かれたA部門大会で表彰された。



空間電位の推定は、従来の2つの円弧型電極を長距離間で囲み、静電容量と電位を用いた誘電率分布の推定を検討。測定と数値電界解析結果を比較した。静電容量では実験結果と数値解析結果がほとんど一致したが、電位ではデジタルマルチメーターで測定した実験値と数値解析値が大きく異なっていた。

に提案し、検討した。式を見ずとも図で内容を理解できるように工夫。誤解を招かないよう用語のニュアンスに細心の注意を払ったという。辻田さんは「光栄な賞を頂き、研究者冥利に尽きます。指導の教授陣や研究室仲間、家族に感謝します。今後も一層研究に邁進したいと思っております」と語った。

山田さん優秀発表賞

プラスチック汚染 微小粒子の抽出法開発で

日本環境化学会の第27回環境化学討論会（5月22、25日、那覇市の沖縄県市町村自治会館で開催）で、山田直史さん（建築都市環境学科4年、亀田豊研究室II写真）が「顕微フーリエ変換赤外分光光度計による水中微小粒子マイクロプラスチックの高精度分析手法の開発」を口頭とポスターの両方で発表し、優秀発表賞を受賞した。



プラスチックによる水環境汚染が注目されているが、国内では調査が進んでいない。世界的にも分析方法が確立されておらず、新技術の開発が急務とされている。

特にマイクロプラスチック（MPs）については、数十μm以下の粒子・繊維状MPsの発見は困難だ。山田さんは学会初参加。何度もスライドとポスターを修正し、口頭練習も念入りにやったという。受賞の感想を「素晴らしい賞をいただき、うれしく思います。亀田先生や多くの方々のおかげで感謝しています。今後とも精進していこうと思えます」と語った。

山田さんは、水中の20μm以上の粒子・繊維状MPsについて、比重分離と凝集沈殿処理を用いた抽出と、抽出後のサンプルの半自動定性・定量分析手法を開発し、抽出結果が有効なことを確かめた。

ベトナムの大学の頂点に立つハノイ国家大学工科大（VNU-UEIT）のロボット学科開設に対する本学の全面支援の取り組みが9月21日、文部科学省の「日本型教育の海外展開推進事業」（EDU-Portニッポン）の

ベトナム初のロボット学科開設。公認プロジェクトに採択された。59件の申請のうち、公認プロジェクトの採択は12件で、私立大学は本学が唯一。

ベトナム初となるVNU-UEITのロボット学科は、本学未来ロボティクス学科の力加。何度もスライドとポスターを修正し、口頭練習も念入りにやったという。受賞の感想を「素晴らしい賞をいただき、うれしく思います。亀田先生や多くの方々のおかげで感謝しています。今後とも精進していこうと思えます」と語った。

締結式は本学で行われ、小宮一仁学長と山下校長が締結書を交わした。両校は今後、協力して、次代を担い国際社会で活躍できる人材、また、福島復興のための人材育成を進めていく。



受賞した吉崎さん（右）＝指導の小澤准教授と

福島高専と連携協定 工科系人材の育成へ

本学は、地域で有能な工科系人材を育てようと、9月21日、国立高等専門学校機構・福島工業高等

締結式は本学で行われ、小宮一仁学長と山下校長が締結書を交わした。両校は今後、協力して、次代を担い国際社会で活躍できる人材、また、福島復興のための人材育成を進めていく。



締結書を交わす小宮学長（右）と山下校長

石井さんゴールド賞 9人がシルバー賞

サイエンティスト育成シンポ



ゴールド賞の石井さん(中央・首にメダル)と、シルバー賞の(左から)魚返さん、木原さん、村井さん、出津さん、松本さん、岩崎さん、旭さん、牧野さん、光武さん(円内)。手前椅子は小浦教授

材料技術研究協会が大學生・高校生を対象に初開催した「International Student Symposium 2018」次世代サイエンティストの育成一(8月8日、横浜市のヒューリックみなとみらい環太平洋大学国際科学・教育研究所)で、石井元揮さん(生命環境科学科4年、小浦節子研究室)が「重炭酸イオンが光触媒水処理に与える影響」を口頭発表し、ゴールド賞を受賞。同じ生命環境科学科4年の9人がシルバー賞を受賞した。

9人は、黒崎直子研究室の▽光武百合さん(子宮膵がんに対するカルコンの抗腫瘍活性(口頭発表))
小浦研究室の▽旭都さん(電気透析を用いた海水からのリンの回収(口頭発表))▽出津直弥さん

II谷津干潟におけるホンビノス貝を用いた硫化物除去の検討(同)▽岩崎隆将さん(IIスターリングエンジンの性能向上)▽の機械損失低減の検討(同)▽魚返亮太さん(IIウルトラファインバブル水による中殻類への生理活性効果の検討(ポスター発表))▽木原純平さん(II低温排熱利用を目的としたグラフェン膜の熱電特性の検討(口頭発表))▽牧野航平さん(II AI 負極を使用した二次電池における充電時のデンドライト抑制(ポスター発表))

▽松本智行さん(II水環境に存在する菌に対する水素ファインバブルの抑制効果の検討(口頭発表))▽村井聡紀さん(IIワサビの成長に及ぼす酸素ウルトラファインバブル水の影響(ポスター発表))
ゴールド賞の石井さんは「初の学会形式の発表で賞をいただき、うれしく思います。うまくいかない時期もありましたが腐らず日々向き合ってきた結果だと信じています。小浦研の皆と切磋琢磨し共に成長していければ……」コメントした。

リストの提案と有効性の確認」
全社リスクマネジメント(ERM)の視点をプロジェクトリスクマネジメントに適用するためのチェックリストを提案した。
「優秀賞を頂き、うれしく思います。熱心に指導して下さいました先生方に心から感謝します」
「前回に続き賞を頂け光栄です。加藤教授から先生方・先輩や調査に協力して下さいました皆様にお礼を申し上げます」

本学4人が優秀賞

京都でPM秋季研究発表大会

プロジェクトマネジメント(PM)学会の2018年度秋季研究発表大会は8月30、31日、京都市の同志社大・今出川キャンパス良心館で開催され、本学からは4人が学生研究発表賞の優秀賞を受賞した。

受賞したのは上野奈々さん(マネジメント工専攻修士2年、下村道夫研究室)▽佐藤優至さん(同、田隈広紀研究室)▽加瀬匠汰朗さん(同1年、加藤和彦研究室)▽植草皓さん(PM学科4年、谷本茂明研究室)。
上野さんは昨年秋季、加瀬さんは今年春季に続く同賞受賞。
4人の発表テーマと感想などは次の通り。



(左から)上野さん、加瀬さん、植草さん、佐藤さん

「旧稿から更に深掘りして研究を進めました。優秀賞が頂けてうれいです。下村先生や協力してくれた研究室のみんなに感謝です」
佐藤 優至さん
「全社リスク管理の視点を導入したチェックリストの提案も研究した。」
「「初稿から更に深掘りして研究を進めました。優秀賞が頂けてうれいです。下村先生や協力してくれた研究室のみんなに感謝です」
佐藤 優至さん
「全社リスク管理の視点を導入したチェックリストの提案も研究した。」
「「初稿から更に深掘りして研究を進めました。優秀賞が頂けてうれいです。下村先生や協力してくれた研究室のみんなに感謝です」
佐藤 優至さん
「全社リスク管理の視点を導入したチェックリストの提案も研究した。」

高橋さん優秀賞

脳活動の加齢変化をポスター発表



若手研究者のために計測自動制御学会計測部門が開いた第35回センシングフォーラム計測部門大会(8月30、31日、山口県宇部市の山口大・常盤キャンパス)で、高橋誠哉さん(情報工学科4年、信川創研究室II)が「加齢における脳波の複雑性変化の解析」をポスター発表し、優秀賞を受賞した。

脳活動の医学的解析は従来、脳波のパワースペクトル解析

が中心だった。高橋さんは、脳活動の複雑性を反映した脳波の特異値スペクトルを用い、脳活動の加齢による変化を高精度で捉えることが評価された。
卒業研究の一貫として福井大や金沢大の研究陣と共同で取り組んできた。統計解析やマルチフラクタル解析の手法を理解し、プログラムに実装するのが難しかったという。

信川准教授の研究室では、数理モデルを利用して計算機上に疑似脳を構築、脳の情報処理を解明し深層学習などに応用する「計算論的神経科学」を研究している。
高橋さんは「他大学の院生に混じっての発表で緊張しましたが、学科で中間発表を経験していたので、問題なく発表できました。情報工学科の先生方に感謝します。11月に富山で開催されるSSI2018(計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2018)での発表も頑張りたい」と語った。

「「初稿から更に深掘りして研究を進めました。優秀賞が頂けてうれいです。下村先生や協力してくれた研究室のみんなに感謝です」
佐藤 優至さん
「全社リスク管理の視点を導入したチェックリストの提案も研究した。」

英主席科学顧問が視察

タウンキャンパス 本学の最先端技術に関心



(前列左から)ロボットを説明する先川原室長、バランス博士、小宮学長

英国政府の各官庁の科学技術政策を統括する主席科学顧問として政府科学局(Government Office for Science)の代表を務めるパトリック・バランス博士が10月9日、東京スカイツリータウンキャンパスのARE AI(エリアワン)を視察した。
主席科学顧問には英政府に対し、毎年テーマを設け次世代の科学技術の

世界的展望を報告する職務がある。次のテーマを探るため、世界の有識者へのインタビューや最先端技術の視察を行う途次で、日本では英ケンブリッジ大在籍歴を持つ小宮一仁学長を指名。これを受けて小宮学長が、本学のロボットと人工知能(AI)の技術を紹介するため博士をタウンキャンパスに招いた。
バランス博士は先川原正浩・未来ロボット技術研究センター(future Robotics)室長の案内で、ARE AIに動態展示されている防災ロボット「櫻式號」や、AI技術による魔法のカード「魔法の魔法の魔法」などの種別を判定する「ハナノチ」などを視察・体験し、本学の技術に高い関心を示した。
その後、セミナー室に移動。先川原室長が、世界的な老人ホームの2カ所だけのパーソナルモビリティ「Langko」や全方位移動

金田准教授が銀メダル

国際会議で「水中動作」研究をデジタル発表



金田准教授

スポーツを生体力学的に研究する国際会議「ISBS2018」は9月10～14日、ニュージーランド北島北部・オークランドのオークランド工科大学で開かれ、デジタルポスター発表部門で本学先進工学部教育センターの金田准教授が銀メダル(2位)を獲得した。

発表したのは「PRUNK LOWER LIMB MOTION AND MUSCLE ACTIVITY RESPONSES DURING HIGH VERTICAL STEPPING IN SUBMERGED AND NON-SUBMERGED CONDITIONS」水中でステッピング動作をした時の体幹や下肢の動きと筋活動を調

べ、陸上での動作と比較して特徴を明らかにした。発表は、ポスターをA0サイズ(84・1センチ×118・9センチ)のスクリーンに映し出して説明する形式で、金田准教授には初体験。内容はもちろん、動画やアニメーションを含めたビジュアル度も評価される。

今回の発表では、応用生体力学を駆使した革新的な内容に加え、見て分

果をアピールするために重要な要素「ビジュアル化」にもある程度の評価を得られ、光栄です。今

後も研究だけでなく、内容を魅力的に紹介できるよう努めていきたい」とコメントした。

ISBSはオーストラリア、北米、南米、ヨーロッパ、アフリカを巡回して年一回、国際会議を開いている。

日・台・越で混成チーム

「ロボチャレ」学生交流

本学と台湾の国立台北科技大学、ベトナムのハノイ国家大学工科大の学生が新潟志野校舎に集まって、5日間でサッカーロボットを製作し、競技会を開く未来ロボティクス学科の短期集中講座「ロボットチャレンジ」が8月に開催された。

本学学生の国際交流のインバランス是正などを目的に開設されたこの講座は今回が第5回。ハノイ国家大学工科大が1昨年から参加(昨年は不参加)して3大学態勢となった。

今回は未ロボの1、2年生11人と台北科技大学、ハノイ国家大からそれぞれ10人ずつ、合わせて31人が参加。全員を5班に分けた上で、班ごとに国籍の違う学生2人を組み合わせて3組を作り、各組が8月3日からロボット作りに挑戦した。

ロボットの移動性の同じ台車の上に、各チームがアイデアを凝らしたキックデバイスを搭載。無線操縦(一部は自律制御)でゴルフボールを蹴ってサッカーゲームを行うもの。

機械工学科の仁志和彦教授が昨年、化学工学会誌「Journal of Chemical Engineering of Japan」に発表した「Starting Torque of Vertical Paddle Impeller」垂直パドル翼の起動トルク」が同誌の2017年優秀論文賞に決まり、9月19日、化学工学会第50回秋季大会(鹿児島市の鹿児島大・郡元キャンパスで開催)で表彰された。攪拌翼にかかる力(ト



仁志教授

ルク)を研究したもの。回転式の攪拌翼は、連続運転時よりも起動時に大きなトルクが発生。これが装置の破損や事故につながる恐れがある。

仁志教授は「今後とも社会に寄与できるよい研究をしていきたい。学生も受賞の喜びを味わえるよう、教育にも力を注ぎたい」とコメントした。

を実験的に明らかにする一方、その発生メカニズムをコンピュータシミュレーションで解明した。また、起動トルクを測定することで、個々の攪拌翼の性能に関する特性値を算出できることを示した。

仁志教授は「今後とも社会に寄与できるよい研究をしていきたい。学生も受賞の喜びを味わえるよう、教育にも力を注ぎたい」とコメントした。

直パドル翼の起動トルク

直パドル翼の起動トルク



サッカーロボットを並べて、さあ試合……

デザイン科学科の長尾徹研究室・稲坂晃義研究室と、本学と包括交流協定を結んでいる神田外語大、ミッドスウェーデン大の3大学による国際デザインワークショップ(WS)(4～10月)は10月1日、スウェーデン大使館内のオーディトリウム(東京都港区六本木)で今年最終の報告会を開いた。スウェーデンの教員2人・学生1人と日本側11人が参加し、提案やポスターセッションが行われた。



ポスターを前に3大学の参加者たち

今年のテーマは「Sustainable Fashion」(環境に優しく、持続できるファッション)。最終報告会は台風24号の影響で1時間遅れて開始。スウェーデン側は「ぼひじ」の提案などがあつた。日本の学生たちは英文でポスターを制作し、慣れない英語でプレゼンテーション。それでも用意したノートを見ながら、次第に討論に熱が入った。

WSは本学2研究室の15人、神田外語大17人、ミッドスウェーデン大19人の総勢51人が参加して計16チームを編成し、4月26日に開始。消費されるファッションについて、着終えた製品の処分まで終わるのでは

3大学で最終報告会

国際デザインWS

で1時間遅れて開始。スウェーデン側は「ぼひじ」の提案などがあつた。

WSは本学2研究室の15人、神田外語大17人、ミッドスウェーデン大19人の総勢51人が参加して計16チームを編成し、4月26日に開始。

消費されるファッションについて、着終えた製品の処分まで終わるのでは

参加学生は初対面のパートナーと英語でコミュニケーションを取りながら、ロボットの設計からプログラム書き、秋葉原への部品の買い出しなどを経て、3日目には早くも製作に取りかかった。そして5日目の午後には完成した15台のサッカー

ロボを操って競技会に臨んだ。ゲームはまず15台総当たりのリーグ戦で対戦相手を決め、トーナメント戦に移って順位を決定。最後は優勝チームが未ロボの教員チームに挑戦した。

最終日の6日目は参加した。今回の「ロボチャレ」参加教員は林原靖男教授▽青木岳史准教授▽上田隆一准教授▽藤江真也准教授▽富山健夫ROR研究員。また、修士課程の1、2年生がTAとして学生たちをバックアップしていた。

「」をコンセプトに、普段着のシャツを着続ける中で縫って来た部分を修繕するパッチが、あらかじめパッケージされている製品など、日本文化を生かした提案があつた。

日本側からは、自分が着てきた服を子どもたちに受け継いでいく仕組みの提案などがあつた。日本の学生たちは英文でポスターを制作し、慣れない英語でプレゼンテーション。それでも用意したノートを見ながら、次第に討論に熱が入った。



出来上がったロボットを調整

者全員で東京スカイツリータウンキャンパスを見学し、浅草に足を伸ばして日本情緒を楽しんだ。この間、台湾とベトナムの学生は学生寮のゲストルームに宿泊し、恵まれた新習志野校舎の教育・研究環境の中で「CITライフ」を満喫していた。



来られなかったスウェーデンの学生たち(画面)とともに記念撮影



前列左が新倉さん、その隣が安孫子さん



㊤キャンディーを詰めたロケット内部 ㊦その発射シーン(資料写真)

ロケガ講座 高大連携 最高の形 支える工作センター技術員

本学主催で2014年に始まった「ロケガイル&ボーイ養成(ロケガ)講座」は昨年の中断を挟んで今年が第5回。高校生が、チームメンバーと実際に手を動かしてチャレンジする一缶サット甲子園や「ロケガ甲子園」といった取り組みが、全国的にも広がり始めている。

惑星探査研究センター(PERC)の秋山演亮(PERC)の秋山演亮主席研究員は「宇宙開発の現場でも、言われたことをやるだけのスポンサーフリーディング(至れり尽くせり)では惑星探査はできない。自らの力量を客観的に理解してやりたいことを実現していくロケガ講座こそは、缶サットやロケット甲子園の上位に位置する最高峰の高大連携事業。この機会を通じて多くを学び、大学での学びの端緒としてほしい」と話している。

退職の安孫子さん、新倉さんに感謝

「ロケットの千葉工大」を陰で支える工作センターのベテラン職員、安孫子博さんと新倉朝一さんとともに産官学融合

課技術員(嘱託)Ⅱが9月末で定年退職した。1面で紹介した「ロケガ」のロケットも、和田研究室、SPARKのロケットも工作センターなしには製作は考えられない。そこで「旋盤やフライス盤の使い方などを基礎から、ノウハウの1から十まで教えていただいたお礼に」と、和田研の4年生の代表が、9月22日に打ち上げに成功したばかりのロケットを携えて工作センターを訪れ、2人に感謝の言葉を伝えた。

BtoB企業を知ろう

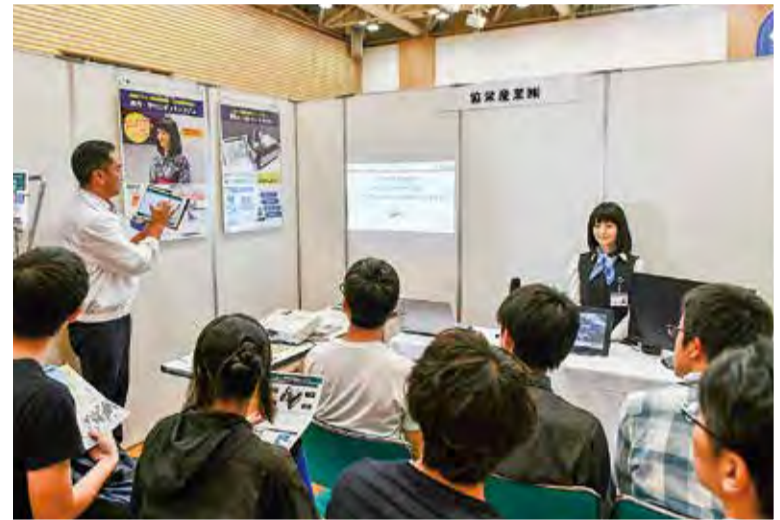
就職課主催 初の技術展示会

消費者との直接接点が乏しいために知名度は低い、卓越した技術を誇る「BtoB」企業(Business to Business)に主に企業間で取引する企業を、全学生に紹介する就職課主催の初の「技術展示会」が10月6日、津田沼2号館3階の大教室で開かれた。

超優良20社 出展

出展したのは各種メーカー17社と商社2社、ソフトウエア開発1社。いずれも千葉工大生の採用実績があり、長年、本学と良好な関係を築いてきた企業から、さらに就職課が厳選した「超」優良企業ばかり。

普段は接する機会のないBtoB企業の製品に、学生が直に触れて、その



㊧熱心に説明に聞き入る学生たち ㊨大盛況の大教室

企業に対する理解を進めてもらうという狙い。全国の理工系大学でも初めてを試みた。

就職課がこの展示会の開催に踏み切った背景には、まず学生と保護者のBtoB企業への理解不足

がある。知名度が低いために経営が安定し高い技術力があっても、「この会社、大丈夫?」と敬遠

臭い・香り 広がる関心

環境学会で最新研究を発表

生活の周辺にあふれる臭い(臭)や香りに関する研究発表を行う第31回において、かおり環境学会(において、かおり環境協会会長 小峯裕司建築学科教授)が8月30、31日の2日間、本学津田沼キャンパスで開かれⅡ写真上、特別講演や一般口頭発表、企画セッション、

ポスター発表や機器展示が行われた。

敬遠される臭いや、それを和らげる芳香への関心の高まりを受けて発表件数は年々増加。口頭発表18件、ポスター発表28件、機器企画展示も新規4社を加え最多16社と、昨年件数をほかに上回る申し込みがあった。

30日は吉川元起氏(国立研究開発法人物質・材料研究機構)が「人工嗅覚の実現に向けた最先端ハード・ソフト技術の垂直統合」と題した特別講演を、において、かおり環境学会学術賞を受賞した吉井文子氏(別府大・発酵食品学科教授)が「においと分子計算化学の利用」と題した受賞講演を行った。

このほか、臭い・香りをセンサーとして活用する研究などの一般口頭発表が展開された。さまざま



低学年のうちから臭いや香りに興味を持ってもらい、社会的関心を高めるのが目的。室内空気環境と住まい方を研究する萬羽郁子・東京学芸大講師と、消臭剤などを開発するエステー(株)の協力で、児童たちに消臭・脱臭の科学的な仕組みを理解する化学実験を体験してもらい、消臭剤作りにも挑戦した。

することが少なくない。全国的に展開している既存の就職情報プログラムのマンネリ化・形骸化も背景の一つだ。本学は教職員と学生・企業がface to faceの親密な関係を築いて就職戦線を勝ち抜く、手づくりの就職支援」を掲げている。

「技術展示会」もまさに就職課員の手づくりで実現した。

大教室に設けられた20のブースでは、各社が自慢の技術の結晶である製品を展示。土曜日にも関わらず会場を訪れた大勢の学生たちは、各社社員の説明に熱心に耳を傾けていた。

福江聡就職・進路支援部長の話 「技術展示会」は来年以降も継続して展開していく考えです。就活生に限らず、全ての学生諸君がこの展示会を通して視野を広げ、キャリア形成につなげてほしいと思っています。

■出展企業 アシザワ・ファイナテック▽アルプスツール▽協栄産業▽クララム・ワークス▽KOA▽コイト電工▽コスモ計器▽重松製作所▽シズン電子▽立花エレック▽タムラ製作所▽THK▽TDK▽テイ・エステック▽東亜レジン▽トモク▽日東工器▽マイクロソフトウエア▽ミマエンジニアリング▽ワイエイシイデンコー

31日は企画セッションが行われ、「建築関係における臭い対策と業界団体の動向」について、さまざまな事例を挙げながらディスカッション。フロアではポスター発表が行われ、発表者と時間をかけて議論したいという参加者の要望に応えていた。

今回の学会では、新たな取り組みとして、小生向けの体験講座が大会前日の29日、開催されたⅡ写真下。

OB大木さんから撮影協力

映画「きらきら眼鏡」 船橋が舞台



船橋市役所に映画の巨大バナーを展開
(大木さんの協議会のウェブページから)



大木さん

「船橋市民を巻き込んで、船橋を舞台にした映画に——森沢さんの原作小説と出会い、願ったのが船橋市

船橋市を舞台にした映画「きらきら眼鏡」(犬童一利監督)9月公開。第21回上海国際映画祭出品作)で、本学OBが理事長を務める同市のNP

○法人船橋宿場町再生協議会が、プロジェクトを立ち上げて映画撮影に全面協力していた。映画は、大切な人を亡くした青年(金井浩人)が、恋人が余命わずかなのによく笑う女性(池脇千鶴)と出会い、彼女の「私ね、きらきら眼鏡、かけることしてるんです。見たものぜんぶ輝かせる眼鏡」の言葉に再生していく姿を、温かく誠実なまなざしで描いている。



物が動くときの抵抗である「摩擦」や、それに

摩擦・摩擦・潤滑に関する科学技術を「トライボロジー」の専門書



平塚教授

伴い表面がすり減る「摩擦」は身近な現象だが、これらが化学反応を促進する効果を持つことはあまり知られていない。

ボロジー」という。本書は▽摩擦が化学反応を増大させる「摩擦化学」▽摩擦が触媒として作用する「摩擦触媒」▽摩擦が腐食を促進させる「腐食摩擦」——について論じた。特に摩擦触媒をタイプに持つ初めての本書

大きな「摩擦化学」▽摩擦が触媒として作用する「摩擦触媒」▽摩擦が腐食を促進させる「腐食摩擦」——について論じた。特に摩擦触媒をタイプに持つ初めての本書

前記3つのトピックで各章を構成。材料に対する機械的作用が電子の放射・移動を促しそれによって化学反応が促進されるという機構や、摩擦に伴う特異な化学反応について、各専門家が独自の論を展開している。

平塚教授はワルシャワ工科大のカイダス教授と共同研究を続け、本書を編集し、序章と終章を含め全章で共同執筆した。カイダス教授は昨年急逝したがその遺志を継いで出版した。全322頁。

一番に考えたのは、当日わざわざ会場にたたく保護者の方々の満足度と身の安全だった。結果、台風の到着前にすべてのプログラムを終え、無事にご来場の方々を見送ることが出来た。心配をよそに、アンケートの満足度も非常に高いものだった。全体会での活動報告から就職環境の基調講演、学科別の個別面談や様々な事務的相談、運営スタッフなど、ご担当

いただいた方々の熱心な対応のお陰と、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。保護者は台風の影響を解りつつも、子供の為に一生懸命である。面談を受ける顔も真剣そのものに、これからも全力で応えていきたい。それにしても、大型の台風が悩まされる年だ。

総務部 畑 憲作

出身の本学卒業生、大木武士さん(平成9年、工業経営学科卒)。大木さんは在学中に二部学友会会長を務め、自主的な課外活動などで力を発揮。現在は船橋宿場町再生協議会の理事長を務め、市の振興策に取り組んでいる。

市民を元気づける機会になる、と大木さんは応援プロジェクトを立ち上げ、市民らに働きかけて寄付金集めやエキストラ募集、PR活動などに全面協力。映画は市内の海老川や三番瀬、船橋駅周辺、勝浦市などで撮影され、多くの市民エキストラやボランティアが加わった。構想から2年半を

かけて昨年10月にクランクアップし今年9月、上映にこぎつけた。船橋市の郷土再生や創成に努め、映画作りに協力した大木さんは「よここまで来たなあ。一生涯の思い出です」と話している。

10月1日は眼鏡の日。この日にちなんで大木さんの協議会は、同市に森沢さんの原作小説150冊を寄贈。市立図書館や中学校などに置かれた。

新習志野学生課(警備員)の堀警備員が9月26日、胃がんのため死去した。58歳。平成26年4月に本学に就任。学生・教職員の安全と施設の円滑な運営に尽力した。

私の専門は分子シミュレーションです。実験装置では調べるのが難しいミクロな世界を分子たちの不思議なふるまいをコンピュータのなかでシミュレーションしています。必然的に私は、白衣を着てフラスコを振っているというイメージの化学者とは違って、研究室

に籠もっているときは椅子に座りっぱなしでディスプレイにためらって。というところで、同業者には腰痛持ちがたつきいます。そこで、研究に集中して取り組むために欠くことのできないこととして、私は、「走る」ことを心がけています。最近では、出張のときにも必ずランニングシューズを持参。出張先の空いた時間で走る「出張ラン」にはまっています。

先日はPPA地区懇談会を訪れた高崎で、早朝、高崎城址の周りをぐるりと走り、石垣や乾櫓などの貴重な遺構を見学することができました。皆さんも出張や旅行でお出かけの際には、ランニングシューズをバッグに詰めてみてはいかがでしょうか？

応用化学科 山本 典史



発行 森北出版 価格 4,536円(税込み)

ロボットを智能化するミドルウェア「ROS」のテキスト。産業用ロボット、自律走行ロボット、サービスロボットなど、ロボットメーカーの技術者、大学の研究室やロボットサークルに属す

る学生たちに必読の一冊。ROSの基本的な機能を説明すると共に、自作ロボットにROSを導入するノウハウ、OpenCV

を使った点群処理、自律移動技術、機能統合や状態遷移、プラグインの開発や数値計算ソフトウェアとの連携テクニックなど、実践的な利用

方法を解説している。furoで自律移動ロボットの研究をリードする原主任研究員はROSの基本的な機能や各種コマンドの使い方、解説▽ROSで用いる座標変換(4x4)の解説▽自律走行を実現するナビゲーション関連のパッケージの解説——などを担当した。

本書に記載されたソースコードは、すべてウェブからダウンロードして利用できるようなっている。304頁。

9月30日、津田沼キャンパスでPPA地区懇談会が開催された。開催にあたっては、大型台風24号接近に伴う様々な対応に追われた。眠れない程の暴風雨と、翌朝まで続いたJRを中心とする交通機関の麻痺が記憶に新しいあの台風である。

ちゃでジャック・オー・ランタンを作って飾るのも定番になっている。このハロウィンに向けJR津田沼駅周辺の大型店・商店を中心にハロウィンパーティーを開催。本学、津田沼キャンパスはハロウィンパレードの最終地点となっている。デザイナー学科の石塚・赤澤研を中心とした学生達は、最終地点に相応しい練習に励んだ企画を提案。趣向をこらしたデ

ジュールでも、見知らぬ土地を走りだすと、様々な景色に出会うことができます。先日はPPA地区懇談会を訪れた高崎で、早朝、高崎城址の周りをぐるりと走り、石垣や乾櫓などの貴重な遺構を見学することができました。皆さんも出張や旅行でお出かけの際には、ランニングシューズをバッグに詰めてみてはいかがでしょうか？

入試広報課 大橋 慶子

ROS実践の最新教科書

実用ロボット開発のためのROSプログラミング

著者 原祥亮・千葉工大未来ロボット技術研究センター(fuR)主任研究員、西田健・九工大准教授、岡田浩之・玉川大教授、山崎公俊・信州大准教授、垣内洋平・東大特任准教授ら12人の共著

9月30日、津田沼キャンパスでPPA地区懇談会が開催された。開催にあたっては、大型台風24号接近に伴う様々な対応に追われた。眠れない程の暴風雨と、翌朝まで続いたJRを中心とする交通機関の麻痺が記憶に新しいあの台風である。

一番に考えたのは、当日わざわざ会場にたたく保護者の方々の満足度と身の安全だった。結果、台風の到着前にすべてのプログラムを終え、無事にご来場の方々を見送ることが出来た。心配をよそに、アンケートの満足度も非常に高いものだった。全体会での活動報告から就職環境の基調講演、学科別の個別面談や様々な事務的相談、運営スタッフなど、ご担当

いただいた方々の熱心な対応のお陰と、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。保護者は台風の影響を解りつつも、子供の為に一生懸命である。面談を受ける顔も真剣そのものに、これからも全力で応えていきたい。それにしても、大型の台風が悩まされる年だ。

総務部 畑 憲作